

第255回教員会議 議事要録

日時：平成29年9月27日（金）13：30～15：40

場所：後援募金記念棟 会議室1-2

◆教員会議◆

[報告事項]

1. カリキュラム検討委員会

(1) 平成31年度改訂予定カリキュラムの検討状況について

資料1に基づき、コース制を検討してきた経緯と10コースのコンセプトや課題について説明があった。特に学問分野横断的となるエネルギーコース・放射線科学コース・科学教育コースの3コースについて、時間を使って説明した。説明の後、自由な討論が行なわれた。

議論の進め方、決定までの手順について、質問や要望があった。概要は過去の教員会議等でも説明されてきている。検討中の事項も多いため、継続して意見を集める必要がある。

「経営」の位置づけ、「機械」というキーワードについて、要望があった。専攻やコースの名称については変更の余地があり、専攻の構成員を先に決定させて専攻名を検討することとした。

コースや専攻の定員についての質問があった。コース定員には幅を持たせることで検討している。コースから学生を受け入れる研究室のキャパシティーや実践科目の受け入れキャパシティーを考慮して設定する必要もある。

就職活動時の履歴書等に、コースと専攻のどちらを書くべきなのかとの質問があった。文科省の立場では「学類＝学科」であるので、卒業見込み学部・学科には「共生システム理工学類」と記載するのが公式であり、学生の判断で学類以下は何を書いても良いのではないかと、発言があった。どのコースで学んできたか判るよう、成績表などに明記することも検討すべきとの発言もあった。

エネルギーコース・放射線科学コース・科学教育コースの3コースについて、賛同する意見と慎重な意見の双方が出された。志望者がいるコースとなるか、履修が楽なコースとなってしまうか、コースとして維持できるだけ授業を確保できるか、など懸念と課題が出された。戦略的な新規採用や特任教員確保等の人事上の課題も指摘された。

数学等の基礎教育に求められるレベルについて、発言があった。現状よりも「積み上げ教育」に近づくが、1年次の理工基礎教育に大きな変化は無いことが予想される。

教職課程認定の結果によって、科学教育コースのあり方は再検討する必要があるのではとの発言があった。

高専からの編入生の取り扱いについて、質問があった。今後の検討課題である。

今後のスケジュールとして、年内に大枠を決定し、年度末までに細部まで決定したい。意見は早めにカリキュラム検討委員会に寄せるよう、要請があった。

2. 奨学寄附金等の受入れについて

資料が投影され、奨学寄附金4件と受託事業1件が報告された。

3. その他

9月23日に郡山で開催されたサイエンス屋台村の様子が投影され、地域連携担当副学長のお礼の言葉が代読された。

12月8日から15日に会計検査院による会計実地検査が予定されていることが学類長より報告された。

◆教育研究評議会◆

第289回（9月19日開催）報告

[審議事項]

(1) 当面の入試改革方針について（戻り報告）

戻り報告の概要が報告された。食農学類入試の作問支援の負担については重く考えて欲しいとの発言があった。

[報告事項]

(1) 福島大学と放送大学との間における単位互換に関する覚書（案）について

平成30年度に限る措置で40名程度の利用を想定して覚書が締結される旨、報告された。

現代教養コースの定員を60名から20名と減らすことの検討状況（文部科学省が認める可能性が出てきたこと）、および、これに伴う4学類の学類定員の再変更の可能性について、情報提供された。

◆運営会議◆

第96回（9月26日開催）報告

(1) 学部等定員超過及び未充足に伴う取扱いについて

大学院定員未充足の結果、年間2900万円程度の損をしている。

(2) 農学支援基金寄附状況の中間報告について

現在、約368万円の寄附金が集まっている。

(3) 県外進路担当者との懇談会について

10月12日に仙台で開催する。

(4) 秋のオープンキャンパスについて

10月21日に開催し、現時点で30名ほどの申込みがある。現代教養コースの授業を公開するが、現代教養コースの学生向けに行なう授業を理工学類生対象とした授業と誤認されてはいけないとの発言があり、今年度の実施で留意・工夫するとともに、次年度の要改善事項とすることとした。